

令和 2 年 6 月 22 日現在

機関番号：32678  
 研究種目：基盤研究(B) (一般)  
 研究期間：2017～2019  
 課題番号：17H02709  
 研究課題名(和文) 保育者養成のための遊び/ドラマ/演劇連続体によるアクティブラーニング型授業開発

研究課題名(英文) Developing Active Learning for Kindergarten Teacher Training through Play/Drama/Theatre Continuum

研究代表者  
 小林 由利子 (KOBAYASHI, Yuriko)  
 東京都市大学・人間科学部・教授

研究者番号：50245297

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,200,000円

研究成果の概要(和文)：当初は、一つのプログラムを開発しようと考えていたが、研究途中で演劇的手法によるアクティブラーニング型授業の場合、受講学生とファシリテーターの特性に合わせる必要があることが明らかになった。そのため汎用性の高いアクティビティを抽出し、実践することに変更し、最終的に誰でもが使用可能なアクティビティを開発できた。

「遊び/ドラマ/演劇連続体」についてヴィゴツキーの考え方を援用して、演劇のルーツが子どもの遊びであることを示すことができた。また、海外現地調査により最近の乳幼児のための演劇は、子どもの遊びを作品に含んでいるので、演劇と遊びの関係性を明らかにすることができた。研究成果報告書を作成し配布した。

#### 研究成果の学術的意義や社会的意義

保育者養成において演劇的手法を導入することは必要であるということはいわれてきたが、研究は非常に少ない。今回の演劇的手法を使ってアクティブラーニング型授業を開発する実践的研究は、質的研究と同時に量的研究を行ったので、その有効性を学生の主観的測定から示すことができた。

国際フォーラムを開催して、乳幼児のための研究者だけでなく制作者にスウェーデンの最新の研究成果を紹介できたことは、日本のこの分野の発展に寄与できた。若手研究者にも刺激を与えることができた。最終的に研究成果報告書を作成し、主要な保育者養成校に配布し、今後全国の養成校に配布するので、研究成果の波及効果が期待できる。

研究成果の概要(英文)：In the beginning we thought to develop one program for kindergarten teachers program with drama/theatre activities but each participant and facilitator has each characteristic. We developed some activities with drama/theatre which everyone can use for any participants.

we found the similarities about the relationship between Virginia G. Koste and Lev S. Vygotsky. It is clear that the root of theatre is child's dramatic play. we found that the recent theatre performances for very young children include children's playing through the playwork in Europe. we clarified the relationship between theatre for very young children and children's play/dramatic play.

Finally, we wrote up the 224 pages report and sent the major universities which have a kindergarten teacher training programs and will send the other ones in future.

研究分野：演劇教育

キーワード：保育者養成 演劇的手法 アクティブ・ラーニング 演劇 ドラマ 遊び 演劇教育 授業開発

## 様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

### 1. 研究開始当初の背景

労働経済学者でノーベル経済学賞を受賞したヘックマン, J. (James Heckman)は、良質な就学前教育を受けた子どもは、就学後に効果的に学び続け、大人になってから経済的な豊かさと質の高い生活を獲得できることを明らかにした(Heckman, 2004)。この研究は、乳幼児教育への投資が、経済的効率性を促進し、健全な納税者の増加を政府に印象づけた。その結果、ヨーロッパでは、乳幼児を対象にした助成金が給付されている。特に、スウェーデンとイタリアが中心となって、ヨーロッパ全土で乳幼児のための舞台芸術が普及・発展している(小林, 2015)。他方、日本でも乳幼児のための演劇は制作されてるが、研究はほとんどなされていない。唯一、平成 27-28 年度科研費挑戦的萌芽研究「遊び/ドラマ/演劇連続体による保育者資質としての感性の育成プログラムの開発」(小林・椋島・木村・花輪)による研究の一部として、ポローニャの「乳幼児のための演劇と文化国際ファスティバル」調査により、乳幼児のための演劇において俳優が登場人物になったり、ファシリテーターになったり、ストーリーテラーになったり観客と舞台を行き来することが明らかになった。これは、保育者が子どもとの関わりで日常的に行っていることと同じである。さらに、乳幼児が演劇作品の物語が終了すると舞台装置や小道具で遊び始め、それが作品の一部に組み入れられていることを明らかにした。これは、コウスティ, V.G.(Virginia G. Koste)の「遊び/ドラマ/演劇連続体」の考え方にもとづく実践例に位置づけられると考えた。

近年、大学の保育者養成において教育方法改革が必要とされ、中教審答申(2012)は「学生たちが主体的に考える力を育成する大学」を求めた。つまり、アクティブラーニングの考え方と実践が保育者養成大学で求められている。保育者は、子どもの遊びを即時に理解し、指導と援助をする即興性が求められる。そこで、コウスティの「遊び/ドラマ/演劇連続体」に基づく演劇的手法を用いたアクティブラーニング型授業の開発が必要であると考えた。演劇的手法を用いた授業において、学生たちはグループで協働しながら、アイディアを出し合い、話し合い、具体的な言語的・非言語的なアクションで表現し、さらにそれについて振り返りをして評価し合う。現在、保育者養成において、「遊び/ドラマ/演劇連続体」に基づきながら、学生の「主体的・対話的な深い学び」を導き出すための授業開発の研究はなされていない。

### 2. 研究の目的

- (1) コウスティの「遊び/ドラマ/演劇連続体」の考え方を明らかにする。アクティブラーニングの方法を明確し、演劇的手法によるアクティビティの方法との共通点を明らかにする。
- (2) 平成 25-26 年度科研費挑戦的萌芽研究で開発したプログラムを基盤にして、「保育者養成のための遊び/ドラマ/演劇連続体によるアクティブラーニング型授業」の仮説プログラムを開発し、実践と修正を繰り返しながら、教材とハンドブックを含む最終版プログラムを開発する。
- (3) 研究代表・研究分担者等でカンファレンスとシンポジウムを開催し、開発しているプログラムを検討する。
- (4) 保育者養成校教員を対象にしたフォーラムを開催し、開発しているプログラムを検討する。
- (5) カンタベリー大学(NZ)、ウーロンゴン大学(オーストラリア)の遊びを重視した保育者養成プログラムを調査し、プログラム開発に反映させる。
- (6) ポローニャの乳幼児のための演劇と文化国際フェスティバルで上演される乳幼児のための演劇作品における、遊びと演劇との関係について明らかにし、最新の演劇技法の特徴と傾向を明らかにする。
- (7) 研究成果を保育者養成校及び社会に普及する。

### 3. 研究の方法

- (1) 文献研究：最新のドラマ/演劇教育、遊び、アクティブラーニングの資料を収集する。資料に基づき「遊び/ドラマ/演劇連続体」の理論を構築し、アクティブラーニングと演劇的手法を用いた活動との共通点を示す。
- (2) プログラム開発：演劇的手法を導入している3大学(東京都市大学・東京家政大学・文京学院大学)の授業を自然観察法で観察し、実践者と観察者で振り返りを行い、記録し、実践するアクション・リサーチを繰り返しながらプログラムを開発していく。
- (3) 初回と最終回授業にアクティブラーニングに関する意識の変化を質問紙調査し、統計処理し、結果と考察をする。
- (4) 海外現地調査：現地で得られた最新の情報をプログラムと「遊び/ドラマ/演劇連続体」の理論構築に反映させる。
- (5) 質問紙調査：開催するフォーラム等の参加者に質問紙調査を行い、結果をプログラム開発に反映させる。
- (6) 研究成果報告書作成：研究成果を報告書にまとめ、保育者養成校等に配布する。

### 4. 研究成果

- (1) コウスティは、ドラマと演劇という芸術のルーツが子どもの劇的遊び(dramatic play)にあることを指摘した。ここでいう劇的遊びとは、子どものごっこ遊びのことである。コウスティは、劇的遊びもドラマも演劇もトランスフォーメーション・イマジネーションが共通している、と述べている(Koste, 1978)。これは、何かを別のものとして考える「見立て」と誰かになるとい

う「変身」のことであることを明らかにした。ヴィゴツキーも子どもの遊びが高度化したものが演劇であると述べている。これらのことから、本論では演劇とドラマのルーツが子どもの劇的遊びであるとし、劇的遊びが高められてドラマと演劇というアートにつながるとした。そして、これは、一直線の連続体ではなく、行ったり来たりしたり、ドラマを乗り越えて遊びと演劇がつながったりすることを明らかにした。

(2) プログラムを開発する途中において、誰でもが使える一つのプログラムを作成することに無理があることが明らかにされた。演劇的手法を用いたアクティブラーニング型授業において、対象となる学生たちの特性に即したアクティビティを開発する必要性が明らかになった。たとえば、音楽大学附属の保育者養成課程の学生たちは、音楽を導入することによりアクティビティへの取り組みに変化が見られた。他方、表現する経験のない学生たちは、丁寧に段階を踏みながらアクティビティを組み立てる必要がある。3大学(東京都立大学・東京家政大学・文京学院大学)においても学生たちの特徴に違いが見られた。したがって、演劇的手法を用いた授業では、目の前の学生に合わせてアクティビティを変えたり、組みなおしたりする必要がある。そこで、一つのプログラムを開発するのではなく、汎用性の高いアクティビティを抽出し、典型的なアクティビティを開発することに変えた。さらに、演劇的手法を用いたアクティビティは、ファシリテーターの特性にもかかわっていて、その人しかできないアクティビティがあることが明確になった。そこで、誰にでも対応でき、誰でもがファシリテートできるアクティビティをいくつか抽出し、今回の最終版とすることにした。ここから、演劇的手法を授業に導入するためにファシリテーター養成が必要なことが明らかになった。つまり、プログラムを開発しただけでは不十分である。ファシリテーターを養成し、そのファシリテーターと参加者に合ったアクティブラーニング型授業をファシリテーターと共に開発する必要がある。したがって、ファシリテーター養成とファシリテーターに合った方法をメンターと一緒に模索するアフターケアを組み合わせたプログラムの必要性が明らかになった。

(3) アクティブラーニングに関する意識調査のために、コミュニケーション能力に着目して調査を実施した。東京都立大学児童学科1年生前期「保育の理解と方法(言語表現)」を受講する学生に、初回の授業と最後の授業後にWebの質問フォームに自記式質問票による調査を実施した。調査は前後比較のため記名式としたが、授業の評価には一切関係がないことを説明し、調査の主旨を説明し自由参加とした。調査項目は、コミュニケーション能力の主観的測定項目20を10段階評価で測定した。項目は、自分の考えを言葉でうまく表現する、自分の気持ちをしぐさでうまく表現する、自分の気持ちを表情でうまく表現する、自分の感情や心理状態を正しく察してもらい、相手の意見や立場に共感する、友好的な態度で相手に接する、相手の意見をできるかぎり受け入れる、相手の立場を尊重する、人間関係を第一に考えて行動する、人間関係を良好な状態に維持できるように心がける、意見の対立による不和を適切に対処する、感情的な対立による不和を適切に対処する、自分の衝動や欲求を抑える、自分の感情をうまくコントロールする、まわりの期待に応じた振る舞いをする、人前に出るのは得意ですか、自分から意見を言えますか、表現することが得意ですか、積極的ですか、人前で話せますか、である。結果の考察として、授業前後比較で、多数の項目で改善と向上が見られた。特に、とが改善と向上度が高かった。この授業の前後で学生の主観的コミュニケーション能力の向上が認められた。今後も質的研究に加え、量的研究も実施しながら、演劇的手法の導入によるアクティブラーニングの効果について検討していきたい。

(4) フィンランドのヘルシンキで開催されたSAMPO国際人形劇フェスティバル調査とアートセンター調査から、ヨーロッパにおける乳幼児のための演劇とアクティビティのニーズが明らかになった。2000年以前は、5歳からを対象にした児童演劇が多かったが、スウェーデンとイタリアの劇団による乳児からの演劇作品の影響で、現在は生後6か月から観客として可能であることが明らかになった。ポーランドの乳幼児のための演劇と文化国際フェスティバルの上演作品の多くは、子どもの遊びの導入があり、演劇作品鑑賞、物語終了後の俳優・舞台装置・小道具による遊び、という形式が主流であった。つまり、子どもの遊びと演劇鑑賞が融合したスタイルであった。これらの調査は、コウスティの「遊び/ドラマ/演劇連続体」の実践事例として示すことができた。

(5) スウェーデン大使館後援を得て、スウェーデンの乳幼児のための演劇の研究者であるプリンチ、R. (Rebecca Brinch)を招聘し、国際フォーラムを開催した。最新のスウェーデンにおける乳幼児のための研究成果を日本に紹介することができた。特に、「ベビードラマ」の創始者であるスザンヌ・オスティンの仕事を日本で初めて本格的に紹介できたことは、日本の乳幼児のための演劇研究と演劇作品制作の発展に寄与できた。基調講演の通訳を研究分担者(中島裕昭)が担当し、プリンチが後日校正した論文を翻訳し、『児童・青少年演劇ジャーナル げき』に掲載できたことは、日本の乳幼児のための演劇にインパクトを与え高く評価できる。さらに、フォーラムの参加者からもポジティブな質問紙調査を得ることができた。

(6) 3年間の研究成果を報告書(224頁)にまとめることができた。報告書が3月に出来上がったため、主要な保育者養成校に配布できたが、全国の保育者養成校に配布できなかったため、今後徐々に郵送する予定である。

#### <引用・参考文献>

小林由利子、英米のドラマ教育の考察(9) - イースタン・ミシガン大学大学院子どものため

の ドラマ・演劇プログラムにおける「インターンシップ」の教育的意義 -、東京都市大学人間科学部紀要、9、2018、1-8

小林由利子、英米のドラマ教育の考察(10) - ヴァージニア・G・コウスティの「遊びノドラマノ演劇連続体」の検討 -、東京都市大学人間科学部紀要、10、2019、1-8

小林由利子、英米のドラマ教育の考察(11) - ヴァージニア・G・コウスティとレフ・S・ヴィゴツキーとの類似性 - 東京都市大学人間科学部紀要、11、2020、1-8

プリンチ, R. 著、中島裕昭 訳、スウェーデンにおける乳幼児のための演劇、児童・青少年演劇ジャーナル げき 21、2019、44-53

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 17件）

1. 著者名 小林由利子	4. 巻 10
2. 論文標題 英米のドラマ教育の考察 - ヴィージニア・G・コウスティの「遊び/ドラマ/演劇連続体」の検討 -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京都市大学人間科学部紀要	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 小林由利子	4. 巻 20
2. 論文標題 海外REPORT スウェーデンとフィンランドの人形劇	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 児童・青少年演劇ジャーナル げき	6. 最初と最後の頁 46-49
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 花輪充・山本直樹・鴨志田加奈・高谷温子・川合沙弥香	4. 巻 41
2. 論文標題 坪内逍遙が児童教育にもたらした偉業 家庭用児童劇の導入的意義（3）坪内逍遙が目指した表現世界の具象化 家庭用児童劇の台帳より「親雀と子雀」「蠅と蜘蛛」「こだま」「かしと芒」「鼠の会議」「美しい歌」の劇化と実演	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京家政大学生生活科学研究所研究報告	6. 最初と最後の頁 15-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 花輪充	4. 巻 1月号
2. 論文標題 幼児教育において育みたい資質・能力と領域「表現」について考察する	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 キリスト教保育	6. 最初と最後の頁 38-40
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 花輪充	4. 巻 2月号
2. 論文標題 幼児教育において育みたい資質・能力を耕す劇あそびの取り組みについて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 キリスト教保育	6. 最初と最後の頁 38-40
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木村浩則	4. 巻 20
2. 論文標題 保育者・教員養成における「異化」の教育的意義について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文京学院大学人間学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 39 - 50
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 文野洋・木村浩則・奈良環・梶原隆之・木村学・茂井万里絵・柄田 毅・渡辺行野	4. 巻 20
2. 論文標題 産官学連携によるサービス・ラーニング・プログラムの開発 アートフェスタふじみ野2017への参加による学生の学び	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文京学院大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 257-268
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 森下葉子・椛島香代・渡辺行野・木村学・日名子孝三	4. 巻 20
2. 論文標題 他者との協働を通して表現力を育てる演習方法の検討	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文京学院大学総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 269-282
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 椛島香代・安達祐亮・小出美緒	4. 巻 20
2. 論文標題 遊びの中で現れる幼児の問題解決の実態	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 文京学院大学人間学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-18
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小林由利子・椛島香代・木村浩則・花輪充	4. 巻 19
2. 論文標題 演劇的手法を活用したアクティブ・ラーニングの可能性 - 保育者養成における授業事例を中心に -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文京学院大学人間学部研究紀要	6. 最初と最後の頁 135-147
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小林由利子	4. 巻 9
2. 論文標題 英米のドラマ教育の考察 (9) - イースタン・ミシガン大学大学院子どものためのドラマ / 演劇MFAプログラムにおける「インターンシップ」の教育的意義 -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京都市大学人間科学部紀要	6. 最初と最後の頁 25-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小林由利子	4. 巻 48
2. 論文標題 遊びと乳幼児のための演劇の関係性: 「乳幼児期のための演劇と文化国際フェスティバル」の上演作品の検討を通して	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 子どもと文化	6. 最初と最後の頁 26-32
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木村浩則	4. 巻 96
2. 論文標題 ぶんかと教育(14) アートを通じて学生の社会的学びを創造する：地域と大学の連携による取り組みの事例から	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 人間と教育	6. 最初と最後の頁 128-133
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 花輪充・山本直樹・鴨志田加奈・高谷温子・川合沙弥香	4. 巻 40
2. 論文標題 坪内逍遙が児童教育にもとらした偉業：家庭用児童劇の導入意識(2) 坪内逍遙書『家庭用児童劇』台帳の劇化の試み	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 東京家政大学生生活科学研究報告	6. 最初と最後の頁 7-15
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 木村浩則	4. 巻 18
2. 論文標題 高校側のニーズを活かしたトータルな学生支援プログラムの構築に向けて：大学教育へのニーズに関する調査から	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文京学院総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 155-170
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 椛島香代・森下葉子・木村学・柄田毅・木村浩則・松村和子・鳩山多可子	4. 巻 18
2. 論文標題 保育・教育職に必要なストレス耐性：専門職養成の在り方を考える	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 文京学院総合研究所紀要	6. 最初と最後の頁 141-154
掲載論文のDOI(デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -



1. 著者名 花輪充・佐藤隆弘・梁川悦美・柿沼芳江・渡部晃正・細田淳子	4. 巻 5(1)
2. 論文標題 幼稚園教育要領の改訂と教員養成校の課題：5領域から考える	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京家政大学教員養成教育推進室年報	6. 最初と最後の頁 29-38
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 山本直樹・花輪充・桜井剛・安氏洋子・麗洋介・友永良子・川合沙弥香	4. 巻 9
2. 論文標題 演劇に関する研究の動向（3）日本保育学会年次大会(1948～1985)における研究発表を中心に	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 有明教育芸術短期大学紀要	6. 最初と最後の頁 15-27
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 梅山いつき・辻佐保子・宮川麻理子・花家彩子・中島裕昭	4. 巻 65
2. 論文標題 シンポジウム 教養教育としての演劇の可能性（日本演劇学会二〇一七年度大会 演劇と教養	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 演劇学論集	6. 最初と最後の頁 79-88
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計19件（うち招待講演 1件／うち国際学会 2件）

1. 発表者名 小林由利子
2. 発表標題 「保育者養成のための遊び／ドラマ／演劇連続体によるアクティブラーニング型授業開発（2）-遊びとドラマと演劇の関係性に着目して-」
3. 学会等名 日本乳幼児教育学会第28回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuriko Kobayashi, Mitsuru Hanawa, Yukino Watanabe, Kei Goto, Syuichi Iida
2. 発表標題 Panel Theatre, Te-Asobi and Te-kagee” Workshop, Visoni Mapping Festival 2019: International Festival of Theatre and Culture for Early Years
3. 学会等名 Visoni Mapping Festival 2019: International Festival of Theatre and Culture for Early Years, Workshop (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 石黒広昭・池内慈朗・内田祥子・高木光太郎・岡田猛・小林由利子・真壁宏幹
2. 発表標題 アートは学校を変える - アートによる学校的学習観再構築の可能性を問う
3. 学会等名 日本教育心理学会第60回総会自主シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 中島裕昭・小林由利子・花家彩子
2. 発表標題 劇場は「学校」になるべきか
3. 学会等名 2018年度日本演劇学会研究集会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 椛島香代・小林由利子・花輪充・木村浩則
2. 発表標題 学生の『表現』をとらえる授業展開とは - 保育者養成におけるアクティブ・ラーニング (AL) を考える -
3. 学会等名 日本乳幼児教育学会第28回大会自主シンポジウム
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 花輪充
2. 発表標題 保育者養成課程の学生を対象としたドラマ教育の実践(2) 「詩」をストーリードラマのテキストとして
3. 学会等名 日本保育学会第71回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 山本直樹・花輪充・麓洋介・桜井剛・安氏洋子・友永良子・川合沙弥香
2. 発表標題 演劇に関する研究の動向調査 - 日本保育学会年次大会(1948~2017)における研究発表を中心に -
3. 学会等名 日本保育学会第71回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 田澤里喜・花輪充・佐藤康富・佐藤厚・鴨志田加奈
2. 発表標題 学習者の創造性を涵養する授業プログラムの検討 授業実践の意義、内容、課題に着目して - part 4
3. 学会等名 日本保育学会第71回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 花輪充
2. 発表標題 表現の生成プロセスに着目した授業実践 - ICTの活用によるドラマワークショップの取り組みの意義について -
3. 学会等名 日本保育文化学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 花輪充
2. 発表標題 保育者をめざす学生と園との協働的実践における成果と課題 響きあう演劇体験（劇遊び・人形劇・参加劇等）の取り組みを通して
3. 学会等名 日本乳幼児教育学会第28回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 安達祐亮・小出美緒・椛島香代
2. 発表標題 多様な問題解決を引き出す保育展開 表現遊びの事例から -
3. 学会等名 日本保育学会第71回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡辺行野・椛島香代
2. 発表標題 教員養成における身体感覚の育成（1）
3. 学会等名 日本乳幼児教育学会第28回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 早瀬仁美・椛島香代
2. 発表標題 新入園児の（担任）保育者との関係構築過程について - 4歳児の事例から -
3. 学会等名 日本乳幼児教育学会第28回大会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuriko Kobayashi
2. 発表標題 Developing Teacher Program fro Kindergarten teachers through Play/Drama/Theatre Continuum
3. 学会等名 Early Start Conference 2017 (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小林由利子
2. 発表標題 乳幼児のための演劇の特徴 - 「スモール・サイズ」の検討を通して
3. 学会等名 日本演劇学会 秋の研究集会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 小林由利子
2. 発表標題 保育者養成のための遊び / ドラマ / 演劇連続体によるアクティブラーニング型授業展開 Virginia Glasgow Kosteの考え方の検討を通して
3. 学会等名 日本乳幼児教育学会 第27回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 椛島香代・小林由利子・花輪充・木村浩則
2. 発表標題 感性を育てる授業展開の工夫 - アクティブ・ラーニングのあり方を考える -
3. 学会等名 日本乳幼児教育学会 第27回大会
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Yuriko Kobayashi, Kayo Kabashima, Mitsuru Hanawa
2. 発表標題 Kami-shibai, Animaimu and Panel Theatre
3. 学会等名 International Festival of Theatre and Culture for Early Years Vision 2018 (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 渡辺行野・木村浩則
2. 発表標題 保育者養成における感性教育 - 領域を超えたカリキュラム構築に向けて -
3. 学会等名 日本乳幼児教育学会 第27回大会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 椋島香代	4. 発行年 2019年
2. 出版社 文京学院大学総合研究所	5. 総ページ数 14
3. 書名 対人援助のためのコミュニケーション学	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分担者	椋島 香代  (KABASHIMA Kayo)  (00383307)	文京学院大学・人間学部・教授   (32413)	

## 6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	花輪 充 (HANAWA Mitsuru) (10572711)	東京家政大学・家政学部・教授  (32647)	
研究分担者	木村 浩則 (KIMURA Hironori) (40315271)	文京学院大学・人間学部・教授  (32413)	
研究分担者	中島 裕昭 (NAKAJIMA Hiroaki) (50217725)	東京学芸大学・教育学部・教授  (12604)	
研究分担者	早坂 信哉 (HAYASAKA Sonya) (60406064)	東京都市大学・人間科学部・教授  (32678)	